

あの、軽い小さな壹円玉にまつわる逸話が多い。壹円に笑うものは、壹円に泣く一は旧人の訓え。君の顔は壹円玉だ(これ以上、崩し様が無い)は漫才のネタだ。落ちている壹円を拾う労力がもったいない....。

歌もある。♪壹円玉よ 永遠なれ♪もあったが♪一円玉の旅がらす♪が平成元年の「NHK みんなの歌」でヒット曲になった。♪~1円玉の旅がらす 一人ぼっちでどこへ行く 明日は湯の町港町~♪。壹円玉を題材にした演歌。

この様に、壹円玉が注目を浴びたのは、この年に消費税が創設されたからである。3%だと10円玉で7円のお釣り、5円玉で2円のお釣りが必要になることが分かつて、増刷を必要とした年である。

壹円玉は、大蔵省造幣局(現独立行政法人造幣局)で発行している。壹円玉が初めて発行された、初年の昭和30年には7億8,170万枚。現在まで441億円(枚)が発行されて、流通は388億円(枚)となっている。

発行枚数は、年によって異なる。例えば、多い年の昭和47年は12億7,499万枚、48年14億7千万枚、49年17億5千万枚、50年16億5,600万枚。平成元年23億6,697万枚、2年27億6,998万枚、3年27億6,898万枚。

半世紀の年発行平均は10億枚に及ばない。

ところが、昭和43年には1枚も発行されていない。そして、驚くことに平成21年以来5年間1枚も発行されていなかった。

今年2月3日に広島造幣局で、5年ぶりに発行されるという。

通貨が発行されないことに、異常を感じるが、壹円玉は、電子マネーの発達などで需要が低迷していたのである。5年ぶりに発行されるのは、元年と同様に今年の4月から、消費税の増税があり、壹円玉が必要になるからと予想される。

日本の通貨壹円玉は、アルミニウム100%、重さ1g、直径20ミリ、製造原価は2円程度と言われているが、現在では原料のアルミニウムの価格が値

上がりしているから、1枚(円)に3円くらいのコストがかかっているのではないかと言われている。

昭和46年頃、1円玉の流通が悪くなつた。流通が不足したのである。不足した理由として、近隣国で日本の1円玉を隠したという噂が、実しやかに流れた。当時、壹円玉を作るのに1円以上要するから、作れば、それだけマイナスになると計算された。現在では3円も原価を要すると言われているから、更にマイナス率は高くなる。

理由は、この他にもあることを大蔵省は指摘した。壹円玉は(これ以上崩し様が無く)邪魔にされる通貨である。

壹円玉が♪明日は湯の町 港町♪を旅(流通)しないで、机の中や貯金箱に眠っているのではないかと推測された。

そこで大蔵省では、机の中や貯金箱に眠っている壹円玉を供出してくれと、試験的に省内職員に呼びかけた。

なんと1週間で、予想通り机中や貯金箱に眠っていた20万枚が集まった。

それから大蔵省は全国民に呼びかけた。買い物に使ってくれ、金融機関や職場で両替してくれと広報したら、いっぺんに解消した。

新たに大量発行することはなかつた。流石に通貨の発行を担当している大蔵省の叡智と指導であった。

